

エイズ孤児支援NGO・PLAS 事業・決算報告書

2011年度

2011年4月1日—2012年3月31日



Our Mission

HIV/エイズによって影響を受ける子どもたちが笑顔でいられる社会を実現する。

Our Value

私たちが大切にすること

1. 地域で子ども達が育つことを大切にします
2. 地域と共に活動し、住民の自立を優先します
3. 前向きにチャレンジし、成長しつづけます
4. 前向きにチャレンジし、成長しつづけます

Contents

1 Our Mission
Our Value

2 海外事業 ケニア

3 海外事業 ウガンダ

4 海外事業 ワークキャンプ

5 国内事業 世界エイズ孤児デー
キャンペーン

6 国内事業 世界エイズデーキャン
ペーン
助成金実績
主なメディア掲載

7 会計

KENYA

ニャンザ州ウゲニャ県ウクワラ郡

地域概要

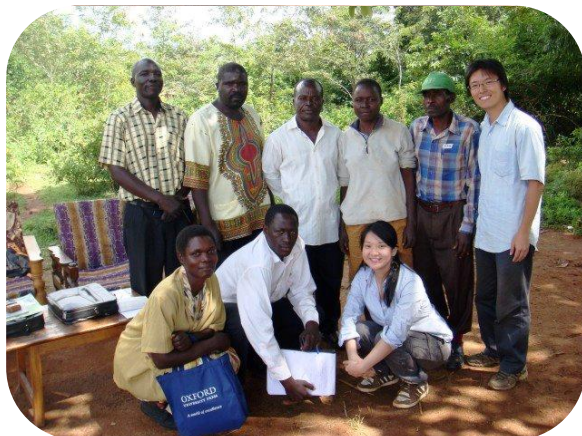
この地域はケニア共和国で最もHIV感染率が高いニャンザ州に位置しており、HIV感染者数がケニア共和国全体で約8.3%であるの
に比べ、この地域のHIV感染率は2002年の
時点で38.4%です。住民の多くが農業に従
事しており、住民の約6割が絶対的貧困層と
言われています。



HIV / AIDS

エイズ啓発・母子感染予防事業

この地域では、妊産婦やその家族が病院へ行くことを拒んだり、HIV検査を受けること自体が差別の対象となったりするなど、社会的な側面から、母子感染予防プログラムを受けることができない女性が多く存在します。
また、およそ2人に1人の妊産婦が、病院に来て初めて母子感染について知るという現状があり、母子感染自体を知らない人が多いことも指摘されています。
妊産婦やその家族が、母子感染予防について事前に知り、病院へ行くことの重要性を感じることが必要とされています。



定期的にフォローアップの研修や情報交換の場を作り、モビライザーたちが活動を続けられるよう継続した研修を提供し、また啓発活動のモニタリングを行い、啓発の質を高められるよう、活動へのアドバイスも行っています。

母子感染予防を地域でリードする リーダーを育成する

2009年1月より、地域のリーダーに対して、母子感染予防についての研修を行い、彼らの地域での啓発活動を支援しています。
研修を受けた後、リーダーたちはモビライザーと呼ばれ、各区でグループを作り、月に2~4回程度の母子感染予防啓発事業を行っています。事業開始から2年8ヶ月で、地域住民8,828人にエイズ啓発を提供。
2011年9月には、母子感染予防事業が日本政府のODAの一環として実施されることになり、国際協力機構(JICA)の「草の根技術協力事業」に選ばれ、JICAおよびケニア共和国ウゲニャ県と共同で実施することが決定しました。3年間の事業で50名の地域リーダーを育成することを目指しています。

母子感染を防ぐ重要性

現在世界では、210万人の15歳以下の子どもがHIVとともに生きています。

そのほとんどが、お母さんからの感染です。

そして、母子感染した子どものおよそ50%は2歳になる前になくなってしまうのです。

しかし、母子感染は、適切な処置とケアを行うことで、その感染率を、3%以下に抑えることができます。現在、その適切な処置とケアを受けられるのは、HIVに感染している妊産婦の10%以下なのです。



UGANDA

ルウェロ県ガルウェロ地区

地域概要

ウガンダ共和国ルウェロ県ガルウェロ地区は1980年代に国内の混乱の中で、多くの住民が同じウガンダ人により虐殺され、財産や家畜を奪われ、子どもが少年兵や性的搾取の対象として拉致されたという悲惨な経験をしている地域です。20数年経過した今も、エイズ孤児を含む孤児が多くなります。



Construction

学校教室建設

エイズ孤児たちが教育を受けられない状況をどうにか改善しようと、有志の地元住民によって2007年に開設されたBasajjansolo Memorial Training Centre小学校（以下BMTC小学校）の学校教室建設支援を行いました。2008年から2009年にかけて3つの教室を建設し、2010年度はさらに1つの新規教室建設を行い、子どもたちが安心して初等教育を受けられる環境を整えました。2008年の支援開始当時は50名程度であった生徒は、2010年には250名に増え、多くの生徒が学んでいます。



今年度の活動と成果

2011年8月～9月に2回の学校建設ワークショップを開催し、さらに1教室を建設し、7年生までの教室5棟が完成しました。また、建設活動に付随して、学校で行われるエイズ教育の充実への協力などを通じて、HIV/エイズに関する正しい知識を広め、人々のHIV新規感染を予防し、HIV/エイズやエイズ孤児への差別解消をはかることで、エイズ孤児の根本的な問題であるHIV/エイズの問題にも歯止めをかけることができるよう取り組んできました。

学校の今後

現在は幼稚園及び小学校のみで構成されていますが、卒業後、自立した生活を生徒が営んでいけるよう、小学校高学年から職業訓練を学校のカリキュラムに組み込み、卒業後に中等教育に進むことができなくても、職を得たり、自分たちで職を創出したりできるよう、将来的には職業訓練所を併設することを検討しています。この職業訓練所については、プラスが今後支援を行うかどうかは未定です。



HIV / AIDS

エイズ啓発事業

学校保護者や地域住民にHIV/エイズやエイズ孤児に対する理解を深めてもらうことを目的とし、2011年夏にはBMTC小学校の子どもたちが学芸会にてHIV/エイズ啓発を盛り込んだ寸劇を上演しました。



WORKCAMP

ウガンダでワークキャンプを実施

【ワークキャンプ概要】

アフリカの現地で、2週間から3週間の合宿型ボランティアプログラムです。日本からのボランティアとアフリカ現地からのボランティアを受け入れています。ボランティアはプラスの事業地で建設作業、エイズ啓発の広報活動などに従事します。



Uganda 夏



2011年8月15日－28日、9月5日－18日の2つの日程でそれぞれ15日間、ウガンダ共和国のルウェロ県の Basajjansolo Memorial Training Centre (以下BMTC)でワークキャンプが開催されました。A日程では日本人7名とウガンダ人7名、B日程では日本人18名、ウガンダ人6名が参加し、同地での開催は7回目となりました。

今回のワークキャンプでは、BMTCの新規教室建設を行いました。

A日程では、5つ目の教室の壁に鉄筋コンクリート製の梁を設置し、B日程では屋根の設置と教室の床張りを日本人とウガンダ人が総出で行い、完成に近づくことができました。

また、期間中に行われた運動会や学芸会では、日本人とウガンダ人ボランティアが現地の言葉で寸劇を披露したり(A日程)、ソーラン節や二人羽織など日本文化を紹介したり(B日程)と、学芸会を盛り上げました。

さらに、HIV陽性者支援を行っている現地団体や、地域の家庭への訪問も行われました。



Voice

参加の声

ワークキャンプは、新しい環境で、初めて出会う仲間たちと過ごす2週間の共同生活。楽しい時間だけではなく、キャンプ参加者それぞれが、ウガンダ人とのコミュニケーションに悩むなど、日々課題も抱えながらキャンプ生活を送っていました。

答えがなかなか見つからないこともありますが、日本に帰ってきてからも、ウガンダで発見した自分の新たな課題や目標と真剣に向き合い、より大きな成長につなげて欲しいと思います。また、自分がそうだったように、もう一度思い出のウガンダに戻って来てくれることを期待しています。(A日程 キャンプリーダー 鈴木克治)



世界エイズ孤児デーキャンペーン2011

5月7日の世界エイズ孤児デーに合わせて
エイズ孤児を知ってもらい、支援につなげるための
啓発キャンペーン

キャンペーン概要

本年が5年目となった世界エイズ孤児デー
キャンペーンは、「こどもたちのえがおに、未来を。」
がキャッチコピー。今年は、フォトジャーナリスト安
田菜津紀さんと共に、写真展、イベント、チャリ
ティーパーティー、チャリティオークションなどを行いま
した。東日本大震災直後の開催となり、震災によ
って被害を受けた子どもたちに、一日でも早く笑
顔が戻るようにと、収益の一部を被災地支援活動
へ寄付しました。



(C) Yasuda Natsuki / studio AFTERMODE

Party

世界エイズ孤児デー チャリティーパーティー

5月7日に、表参道「LA COLLEZIONE」にてチャリティー
パーティーを開催しました。支援者や協力企業の方な
ど105名にご参加いただきました。

ゲストスピーカーの一人、エイズ孤児のルベガ・ロナ
ルドさん(あしなが育英会留学生)や、フォトジャーナ
リスト安田菜津紀さんからのメッセージは、多くの
人の心を動かししました。

会場では、飲み物を片手に参加者やスタッフどうし
が和やかな雰囲気の中で、新しい出会いやつなが
りが生まれました。また、豪華賞品が当たるチャリ
ティーラッフルも実施。協賛企業のアイデアインター
ナショナル様、ザ・ボディショップ様、イミオ様、ラ
ッシュジャパン様からのギフトセット等が当選者
に手渡されました。



Photo Exhibition



安田菜津紀さん写真展

「Ekilooto of Uganda～HIVと共に生まれる」

4月20日～5月31日まで、都内3か所で写真展を
開催。2010年、プラスが活動するウガンダの事業
地取材で訪れた安田さん。写真からは、HIV/エイ
ズによって親を失い、地域で差別に遭うなど子
どもたちの過酷な現状と共に、家族を愛し、
将来への夢を失わない子どもたちの姿が映し
出されていました。

Event



「Ekilooto of Uganda」特別イベント

5月27日～28日に、原宿のBODY WILD Under wave
原宿本店にて特別イベント&ワークショップを開催。
日本ではまだまだ知られていないエイズ孤児の存
在について、たまたま来店した方や興味を持った
街頭の方へクイズ形式のワークショップでお伝え
しました。両日で201名が参加し、「14秒に1人、
エイズ孤児が増えつづけている」などを知り、
「日本からできることをしていきたい」と話し
てくれた方もいました。

世界エイズデー キャンペーン2011 「子どもたちのえがおに、未来を。」

12月1日の世界エイズデーに合わせた啓発
キャンペーン

キャンペーン概要

プラスの魅力やエイズ孤児の現状をお伝え
するチャリティーパーティーの開催、プラス
Facebookページでの「いいね！募金」、著名
人のご協力のもとチャリティーオークションの実
施などを行いました。



Event



世界エイズデー チャリティーパーティー

2011年11月27日、表参道にてチャリティーパーティーを開
催。様々な分野から85名の方にご参加いただき、グラスを
片手に楽しいひとときを過ごしました。また、ゲストのエイズ
孤児のルベガ・ロナルドさん(あしなが育英会留学生)から
のメッセージ、「日本からエイズ孤児を想う気持ちは、アフリ
カの子どもたちに必ず伝わっています。みなさんのできるこ
とを、続けてください」は多くの人の胸に響きました。

Auction

11月15日から12月13日まで
チャリティーオークションを実施
し、多くの著名人の方々に私物
やサイン入りオリジナルグッズ、
サイン入りリボンマグネット等
をご提供いただき、296,349
円の寄付が集まりました。

Products



株式会社イミオ様のご
協力により、SFIDA/
特集(世界エイズデー
2011)を通して、該当
のサッカーボールが1
個売れるたびに500円
をプラスに寄付して頂
きました。

助成金・ 企業寄付 実績

- ・日興アセットマネジメント株式会社様「日興AM従業員チャリティープログラム」より、426,432円の助成
- ・ゲンゼ株式会社様「ゲンゼラブアース倶楽部」より、100,000円のご寄付

主なメディ ア掲載

- 新聞
 - ・日刊スポーツでプラスの「世界エイズデーキャンペーン」が掲載されました。
- ラジオ
 - ・InterFM「GREEN STATION」にプラス理事の一宮と浅野が出演しました。
- 書籍
 - ・環境とCSRと「志」のビジネス情報誌『オルタナ』の姉妹メディア『オルタナS』vol.2に代表の門田が取り上げられました。
- ネットメディア
 - ・キャリアカウンセリング、最新国際開発ニュースをお届けするサイト『devex』にプラスの事務局長の小島が掲載されました。

| 科目 | 金額 |
|-----------------|------------|
| (経常収支の部) | |
| I 経常収入の部 | |
| 1 会費収入 | 174,000 |
| 2 事業収入 | 3,173,135 |
| (1)啓発事業収入 | 1,479,135 |
| (2)ボランティア派遣事業収入 | 1,694,000 |
| 3 助成金等収入 | 7,916,273 |
| 4 寄付金収入 | 4,264,767 |
| 5 その他収入 | 729 |
| 利息収入 | 729 |
| 6 その他の事業会計からの繰入 | |
| 経常収入合計 | 15,528,904 |
| II 経常支出の部 | |
| 1 事業費 | |
| (1)ケニア事業費 | 7,013,477 |
| (2)ウガンダ事業費 | 5,059,100 |
| (3)国内事業費 | 2,383,572 |
| 2 管理費 | 2,383,572 |
| (1)役員報酬 | - |
| (2)給料手当 | 1,423,498 |
| (3)什器備品費 | 62,790 |
| (4)光熱水費 | 36,000 |
| (5)家賃 | 180,000 |
| (6)消耗品費 | 125,225 |
| (7)通信運搬費 | 119,483 |
| (8)印刷製本費 | 69,330 |
| (9)交通費 | 190,880 |
| (10)会場費 | 4,000 |
| (11)人材育成費 | 8,080 |
| (12)雑費 | 38,395 |
| (13)手数料 | 125,891 |
| 経常支出合計 | 17,352,855 |
| 当期収支差額 | -1,823,951 |
| 前期繰越収支差額 | 6,749,471 |
| 次期繰越収支差額 | 4,925,520 |

エイズ孤児支援NGO・PLAS

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-14-58クリエイト目黒2A

TEL/FAX 050-3627-0271 info@plas-aids.org

www.plas-aids.org/